

投資事業評価調書（新規）

部課室名	県土整備部県土企画局 交通政策担当課長	記入責任者職指名 (担当者氏名)	課長 河野 信夫 (金野 幸雄)	内線	4534 (4539)
事業種目	鉄道	事業名	事業区間	総事業費	約58億円
		J R 姫新線高速化事業	姫路駅～上月駅 (L = 50.9m)	内用地 補償費	0億円
所在地			事業採択予定年度	着工予定年度	完成予定年度
姫路市駅前町～佐用郡佐用町中上月			平成18年度	平成18年度	平成20年度
事業目的			事業内容		
<p>J R 姫新線は、兵庫県内において姫路～上月間50.9kmを結び、沿線地域間の生活交通需要を支えるとともに、東西交通の大動脈であるJ R 山陽本線へのフィーダー路線としての役割を果たしている。しかし、現在は、列車の運行速度が遅いこと、運行本数が少ないことなどから利用者は減少傾向にある。このため、本事業により姫新線の速達性、快適性を向上することで、公共交通の利用促進と沿線地域の活性化を図る。</p>			<p>事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型ディーゼル車両の導入 ・軌道改良（道床、信号設備等） ・軌道改良（カーブ区間改良） ・安全側線の整備 <p>負担割合</p> <ul style="list-style-type: none"> ・J R、兵庫県、沿線市町との間で調整中 		
評価視点	評価結果の説明				
(1)必要性	<p>速達性・快適性</p> <p>所要時間が短縮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路～上月間平均約18分の短縮（現行80分 62分） ・姫路～播磨新宮間平均8分の短縮（現行36分 28分） <p>運行頻度の増大が可能となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫路～播磨新宮間のピーク時の増便が可能（現行3本/時間 4本/時間） <p>新型車両の導入により、乗り心地など乗車時の快適性が向上する。</p> <p>安全・安心</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高速化に伴う新たな安全対策施設整備により、安全性を確保する。 <p>地域ニーズ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・姫新線姫路上月駅間電化促進期成同盟会において、フォーラムの開催、乗継時刻表の作成、ホームページの公開等積極的な利用増進運動を展開している。 <p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひょうご21世紀交通ビジョンにおいて、「既存鉄道の輸送力強化」として、中期事業（概ね2010年までに完成を目指す事業・計画）に位置づけられている。 ・近畿地方交通審議会答申(平成16年10月8日)において「既存施設の改良に関し検討すべき主な事業（路線の機能の向上に資する事業）」に位置づけられている。 ・事業実施により利便性が大きく向上するが、採算性の面から鉄道事業者が単独で実施することが困難であるため、兵庫県と沿線市町が公的支援を行う。 				
(2)有効性・効率性	<p>有効性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B / C = 2 . 3 <p>効率性 (事業執行環境)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成16年度に策定した「J R 姫新線利便性向上対策アクションプログラム」に基づき、駅前広場整備、バスアクセスの充実、パークアンドライド駐車場の整備、サポーターの育成支援等の関連施策について、沿線市町、交通事業者とともに連携して取り組むこととしている。 				
(3)環境適合性	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車交通から公共交通への転換、新型車両の導入により、騒音、排ガスの軽減など沿線の環境改善が期待できる。 				
(4)優先性	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢社会の到来や環境保全等の観点から、公共交通体系の構築・強化が緊急課題となっている。 ・ひょうご21世紀交通ビジョンにおいて、「概ね2010年までに完成を目指す事業・計画」として位置づけられたJ R 山陽本線のフィーダー路線のうち、J R 播但線、J R 加古川線は既に一定の改良を終えている。J R 姫新線について、事業執行環境が整ったことから、優先的に取り組む必要がある。 				